白＆黒-To a world end-

reruka

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
白＆黒ーＴｏ　ａ　ｗｏｒｌｄ　ｅｎｄー

【Ｎコード】
Ｎ２８２８Ｆ

【作者名】
ｒｅｒｕｋａ

【あらすじ】
ミルが死んですぐ。時の救済者と知らされる。長野県、ヴェネチア、ニームに呪いがある。その呪いの元凶とは！？

ＣＡＬＬ１：時の救済者

「時の救済者？」
そうトモは、言った。時の救済者？本当にそう思った。
左目に十字架が出てきてるのはミルが死んでからだった。
ミルの呪いがオレに移ってきたことはＨｅｌｌ　ｄｏｌｌに知らされていた。
「ｆｕｔｕｒｅＳｃｏｐｅも出来る。」
「てことは！！？」
ミルも時の救済者。救済者が死ぬと多分崩壊する。
「今から、長野行きます。」
え？ミル・・・・・。そう思って泣いた。
「フォスター。ティキ。」
呪いの放出場所は長野。そういえば！？
「ミル！お前の墓も長野だったな。呪いの元凶はお前か？」
呪い・・・。そういえば、あの大阪にいたときもミルはなにかと戦っていた。
あれはＨｅｌｌ　ｄｏｌｌなのか？キュウウウウウン！
「！？」
『推定距離２００ｍ。Ｈｅｌｌ　ｄｏｌｌ急接近中。』
！？なんだこれ？
「トモ！？目が！！」
ん？触ってみた。なんにもなっていない感じだ。
ズッドーン！！
『Ｈｅｌｌ　ｄｏｌｌ。Ｌｖ．２。』
レベルなんてあるんだ。何体だ！？７体！！
「装着！」
『ｌｅｔｈａｌ　ｓｗｏｒｄ』
ミルからもらった剣。これで新しい技を得た。

『第二の目の管理人。ここでの戦いは無駄です。移動して下さい。』
！？なんで？
まぁいいや。従った方が良さそうだし。
「ティキ、何か見えた？」
「ｌｅｔｈａｌ　ｓｗｏｒｄ以外見えませんでした。」
そしてトモは少し笑って目をそらした。ティキにも見えない。か。
まさか！？時の救済者以外！！分からないのか！？謎が解けた。ミルはＨｅｌｌ　ｄｏｌｌと戦ってた。
ティキ。お前まで裏切るなよ。オレみたいに。ステラ。
「フォスター。行くぞ。」
ぼーっとしてたフォスター。
「ちょっと待ってトモ。Ｈｅｌｌ　ｄｏｌｌが見える。」
え？Ｈｅｌｌ　ｄｏｌｌは救済者以外？考えられるのは２つ。
フォスターが特殊な目の持ち主。
フォスターが救済者。
どっちでもいい。フォスターには。未来を託す。
「ほっとけ。目が言うにはほっといた方がいいらしい。」
「目？」
なにもないよという風に首を振ってコートを着て新幹線に乗った。
「まだあるんだな。新幹線。」
まぁな。そういった風に笑い、目を背けた。
「ミルが返って来る訳ねェだろ！」
カチン！怒った。
「帰ってこなくても！ミルは大事な仲間だろ？」
「どんな理由でも付き人に、そんな不機嫌な顔見せんなよ。」
フォスター！！その時初めてフォスターが嫌いになった。
「理由？そんなの言ってんじゃねぇ。ミルが死んで不機嫌なんじゃねぇよ。」
フォスター。違うんだよ。

ＣＡＬＬ１：時の救済者（後書き）

２章はじまります！！

CALL2：LV．5

静岡県でＨｅｌｌ　ｄｏｌｌの集団を見た。
「とりあえずここで降りる。」
なので、大阪まで行くのは明後日にした。大阪。ミルが一人でＨｅｌｌ　ｄｏｌｌと戦ってた場所。
ヒュウウウン！！
「！？」
フォスターも反応していた。ティキは分かっていないようだ。
『Ｈｅｌｌ　ｄｏｌｌ　Ｌｖ．５。１３体。』
１３・・・・。フォスター行くのか！？
「フォスター！！Ｌｖ分かってるのか！！？？」
だがフォスターはやめなかった。
『クロス・ベル！』
チャリーン。チャリーン。Ｈｅｌｌ　ｄｏｌｌはこっちに来れなくなっている。人間には害が無いようだ。
『プルルル』
こんな時に電話！？電話先！？ヴェネチアか？
ガン！
携帯を破壊してやった。
『ｓｅｖｅｎ'ｓ　ｄｏｌｌ』
人形？！？と思った時には変化してた。
すると、ティキが何か叫んだ。
「今、フォスターには時の救済者の目がついています。左目はトモ。そして右目がフォスターです。
本部からの報告ですから。」
！？やっぱり？救済者・・・・。ガッ！腹をつかまれた。
「やっぱり、ですか？トモ。ティキの方が使えるんじゃないですか？」

そうしてニコッと笑った。
『ｄｏｌｌ　ｗｈｉｃｈ　ｅｖｏｌｖｅｓ！』
『ｒｅｌｉｅｆ　ａｎｇｅｌ！』
腹から手が無くなった。ガハッ！！
「テメェ・・・！！」
怒り狂った。トモ。
パタパタパタ。。。。。。
「？ルルーか。何してるの？」
実の天使。顔は無いけど。のっぺらぼうみたいな感じ。
「・・・・。」
！？フォスター！！
「やめろ！！！！」
ガン！！
『ｃａｎｄｌｅ　ｏｆ　ｔｈｅ　ｄｅａｔｈ』
死ね。！？手応えが無かった。
「流石にＬｖ５ですねー」
「手加減はねぇぞ。」

CALL3：大切なモノ

トモは剣を構えた。フォスターはグローブをつけ、攻撃態勢に入っている。
「フォスター。Ｌｖ．５なんて生半可な相手じゃない。」
「そんなの分かってる。」
・・・。フォスターをじっとみて、構えた。
「ボーッとするな。」
そこに１人現れた。
「リリさん！？」
そこには蝶をつれて来ていた。
フッとひと笑いをして、すっと手を挙げた。すると、Ｈｅｌｌ ｄｏｌｌは一瞬で消えた。
『ｗｉｃｋｅｄ ｂｕｔｔｅｒｆｌｙ．』
「！！！！！」
まさかだった。
『ｗｉｃｋｅｄ ｂｕｔｔｅｒｆｌｙ ＆ａｍｐ； ｋｉｌｌｅｒ Ｈｏｒｎｅｔ．Ｆｉｎｉｓｈ．』
コイツは？リリか？でも？姿は一緒だ。
「いつの間に？邪悪な蝶と殺し屋蜂なんて？」
そう言うとリリは泣きそうな顔になり、トモに、
「未来はミルの敵だった。」
そうつぶやいた。
そうした時、真実の管理人が前を通った。
「未来は、オレらの敵なのか？」
そう聞いたら、リリは泣いてしまった。
「こんな奴泣かしたくねぇんだよ。」
そうしても管理人は答えなかった。とりあえず、未来を変え、ステラを討つ。それが最優先だった。

「グサッ！！」
はっ！！腹か？またかよ・・・・・！
「力は抜いといた。」
フォスター？お前はまで聞こえたが、その後は眠たくなって聞こえなかった。
真実の瞳？アイツは呪いだ。右目？は誰・・・？だ？
まさか！！
「ユウ！！！！！お前か！？」
きられた。まさか右目は存在しない？なんて。
「左目は奪い取る。お前にはこの、聖なる十字架は背負ってほしくない。」
聖なるだと？なんで？
「お前まだ分かってないのか？オレとお前は右目と左目。そして、左目の
適任者はティキ。お前が死ねばティキに移る。そして、適任者ではないお前は、灰になる。」
なんで？じゃぁ左目の権利は失われるんじゃ？そうか！！ティキ！？なんで！？
「ティキ！！！」
危なかった。左目は無事だったが右目が潰れてしまった。
「グアァァァァァ！！！」
ハハハと少し笑って刺していった。グハッ！
「ミル？あそこにいるのは？」
ミルだった。ユウが生命体復活の本を読んでいて出来たらしい。嘘っぽいが。
「何！？」
ニコッと笑って、トモを見た。
「ただいま。でも記憶はさっき流されました。トモさん。フォスター。何してるの？」
そして少し球体を触って、

「殺しますよ？僕の大事な仲間に。フォスター。」
そして右目の権利はトモ、左目の権利がミルへと移行された。

CALL4：呪いの・・・。

「フォスター・・・。」
と、少し笑い卑怯者といって目つきが悪くなった。
「ティキ。調子に乗らすための演技。ありがとう。」
混乱させるかのようにそう吐き捨てた。でもすぐに、また左目だけを狙ってきた。
「十字架の残量がっ！！トモ！やめろ！」
ガシッ！！
「フォスター・・・・・・。さよなら。」
『ミラー＝フォステル。』
さよなら。
・
・
・
グッシャァァァァァァッァーーーー！！！！！！！！！！！！
「トモ！」
「シャニー。ニームにいるんですか。」
ピーピーピー・・・。
無線が入ってきた。
「こちら～長野ぉ暗証番号２８７６３。」
「ミル？そっちの状況は？」
「こちら～死者１人。氏名ミラー＝フォステル。」
「なにがあったの？」
「フォスターの反逆行為に対し、罰を執行しました。幹部長殿～これに対しての反省など？」
「ミル。あなたに刑を執行します。３ヶ月の本部監禁です。」
「！！なんで・・・ですか？」

ツーツー・・。

「なんでっ！！」

少しミルの目に涙があふれていた。トモ。僕の代わり・・・。そうすこし呟いて本部に向かった。

「ルルー。慰めてくれるのか？」

ぱたぱた・・・

蝶はいいなぁ。少しそう思った。

本部に向かう途中、Ｈｅｌｌ　ｄｏｌｌに多くであった。途中で死にたかった。

でも死ねなかった。

「後ろがら空きだよン★」

え！？グッシャァァァァァァァ！！！

「うああああああああああああ！！！！！！！！！！！」

「！？」

異常なほど叫んだミルに後からつけてたシャニーはびっくりした。

「もう！！！！！！！！！！ぐああああああ！！！！やめろぉっぉぉぉぉぉぉお！」

今。なにがおこっているのか。

「ステラぁぁぁぁぁぁ！！！！！！！！！！！！！！！！！くっっっっそぉぉぉぉっぉ」

もしかして！？十字架が！！？？

十字架が黒かった。これは、呪いの最終地帯。

すると、ミルの目つきが変わった。

「お前ら・・・・・。呪いの演奏者の力見せてやる・・・・・。」

そう呟いて血を吐き捨てた。

「ミル！目が！」

目は、呪いにより崩れ、新しく、周りに模様が描かれた目になった。

「呪いのシャープ。第2。」

そこには不快な音響と共にＨｅｌｌ　ｄｏｌｌが崩れた。

「悪魔の音階。」

「最後になんか言わせてやるよ。」
余裕だった。
「十字架の音響（クロス・サウンド）」
すると右手が十字架のようになり、Ｈｅｌｌ　ｄｏｌｌが灰になった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2828f/

白＆黒-To a world end-

2010年10月9日01時22分発行